

おおくら 議会だより



進む R458号バイパス工事

風水にふれる里
第 132 号
2022.夏

もくじ

5月臨時会・6月定例会	2～3P
一般質問	4～8P
委員会報告	9P
ブレイクタイム	10P

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報常任委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

国保税負担軽減へ

6月
定例会

6月定例会が9日から10日にかけて行われ、国民健康保険税条例の改正や令和4年度補正予算5件等の審議を行った。また、議案に先立ち4名の一般質問が行われ、活発な議論が交わされた。

議案審議

今回審議された主な議案は

- ・国民健康保険税条例の一部改正
(保険税の負担軽減のため税率・税額を下げました)
- ・令和4年度補正予算審議
(一般会計、簡易水道、下水道、診療所、介護保険)
- ・沖縄戦跡国定公園を聖域としその地域から土砂を採掘し埋め立てに使う計画の中止を求める請願の審査
(審査を経て意見書を提出へ)



補正予算決定 【令和4年度補正予算5会計を審議・可決】

	補正額	総 額	主な補正内容
① 一般会計	1億4500万円	39億9200万円	新型コロナウイルスに対応した国からの追加支援
② 簡易水道	170万円	1億5400万円	主に人事異動に伴うもの
③ 下水道	66万円	2億2500万円	主に人事異動に伴うもの
④ 診療所	5万円	2億1200万円	主に人事異動に伴うもの
⑤ 介護保険	15万円	4億4200万円	主に人事異動に伴うもの

意見書の提出

★沖縄戦跡国定公園を聖域としその地域から土砂を採掘し埋め立てに使う計画の中止を国に求める請願(委員会審査を経て議会で採決され、国に対し意見書提出を決定)

請願者

鶴岡市水沢字行司免43-13

沖縄戦戦没者遺骨土砂の尊厳を考える会

代表 漆山ひとみ

審査結果 採択

「本村でも沖縄の地で亡くなった戦没者が6名存在することから、遺骨収集が今後も続く沖縄県南部からの土砂採取を計画することは、戦没者とその遺族の心情を考えれば、到底許されることではない。よって、沖縄戦没者の遺骨が残る沖縄本島南部からの土砂採掘計画を見直し、遺骨を採取する自然環境を保存することが必要と判断し、採択と決定」



★4回目の ワクチン接種始まる ★村営バス更新決定

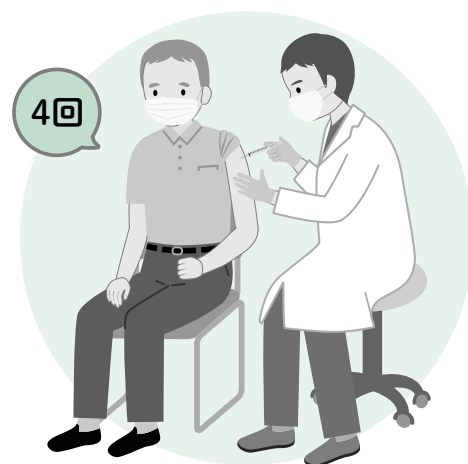
5月
臨時会

5月18日に臨時会を行い、年度替わりの関係で村長専決処分となっている議案の承認の他、村営バスの購入等に関する議事の審議を行った。

議案審議

審議された主な議案は

- ◆国保・村税条例の一部改正
(国の法改正に伴うもの)
- ◆令和3年度大蔵村一般会計他7会計予算
(村税・地方交付税等の確定による補正)
- ◆令和4年度大蔵村一般会計予算
(新型コロナウイルス接種事業補助等)
- ◆村営バスの購入契約
(肘折・新庄間のバスが来春新しくなります)





問 村内ガイドのなり手不足や気象条件の関係で「絶景」などを村への訪問者に十分に案内できない場合がある。一人一台スマートフォンを持つ時代。もっと映像や、音声等を駆使した情報提供、関連した情報との連携、多言語化などが期待される。文化財や観光スポットが存在する現場で気軽に情報収集ができ、違った

季節の写真や、イベント等の映像や音声等に触れられれば、ガイド機能が向上し、村への再訪問や理解につながる。その一つとして「QRコード付きの案内板」の整備を進めてはどうか。

答 村長 コロナ禍で観光トレンドが大きく変化した。旅行形態も夫婦旅、一人旅、年齢層もミドル世代に確実に変化している。アフター

清水城跡や肘折砂防堰堤など、文化財でありながらも観光スポットとしても人気の場所がある。文化財看板にもQRコードを付け情報提供するのは大切。村観光係とも連携し、文化財保護委員会での検討などを通して統一感のある案内板の整備に努める。

※「QRコード」とは、「素早く読み取る」ことを意味する英語の頭文字で、スマ

問 高齢化で人力での自宅等の除排雪は、既に限界を迎えている。他方、豪雪地帯での太陽光パネルによる発電は従来「不向き」とされてきた。しかし、近年融雪機能付き太陽光パネルの開発が進み、南会津町など豪雪地帯でも実証実験が行われている。安価なコストで普及すれば克雪や環境保護の観点で大きく道が開ける。村も設備の開発や普及を後押しできないか。

答 10年程前にシャープ(株)が豪雪地帯用太陽光パネルの開発のため肘折地区で実証実験をした経緯がある。まだまだ技術的には開発途上で成熟したものとはなっていないと感じる。確実に発電ができ除排雪が軽減できれば非常に喜ばしいので今後経緯を見守りたい。技術開発が進み、安価に導入できれば村としても公共施設で実証をおこない、村民への普及にも取り組みたい。

QRコード付き案内板で村をよりPRしては

村長 QRコードを利用した観光案内、実用に向け試作村観光係などとも連携し、統一感のある整備に努める

教育長



佐藤 雅之 議員

コロナに向けてQRコードを利用した多言語化を含む観光案内は、実用に向け試作をしている。若年層への対応も早稲田大学の農村デザイン研究ゼミ観光班に制作協力の依頼を考えている。観光班ではデジタルカメラやドローンなどを活用し温泉街や棚田の景観、名所なども映像として蓄積している。今は何よりも新たな観光素材の発掘と既存観光素材の磨き上げが最優先課題。

教育長

「融雪機能付き太陽光パネル」で克雪を

村長 今後、技術開発が進み安価に導入できれば取り組みたい



QRコードが付いた案内板



村政を問う

一般質問
6月
定例議会



一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

3年目のコロナ禍。「市町村財政におけるコロナウイルスの影響」と題して5月、議会で研修を行い、実情を再認識。今後の政策活動に生かします。

4議員が一般質問

5P

佐藤 雅之 議員

○QRコード付き案内板で村をよりPR
○「融雪機能付き太陽光パネル」で克雪を

6P

八鍬 信一 議員

○村道「赤松滝の沢線」の道路整備
○升玉水力発電所内の公園整備

7P

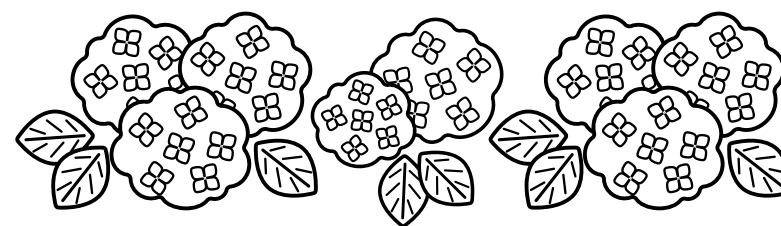
斉藤 光雄 議員

○村まるごとデジタル化事業の推進について

8P

早坂 民奈 議員

○交通弱者の足確保 その後は





八鍬 信一 議員

村道「赤松滝の沢線」の道路整備 村長 損傷区間の舗装事業を3 年計画

問 村道「赤松滝の沢線」内の赤松平林間については、舗装路面の損傷が激しく車両通行に重大な支障を来している。

答 村道「赤松滝の沢線」の沿線には、基盤整備された圃場があり、営農上重要な役割を果たしている。特に起点の赤松地区から約1km区間が舗装の損傷が激しく、今年度から令和6年度までの舗装事業を計画している。今年度は、約300mの舗装を実施する。今後は大型車両や重機の

升玉発電所内の公園計画

村長 具体的整備内容は今年度中に提示

問 本村水資源の活用と再生可能エネルギーの創出を目指した、「升玉水力発電所」が昨年7月に完成し発電を開始した。

昨年7月12日から今年4月13日まで、9か月間の発電量を確認すると、約220万kw、可能出力数値の87%にあたり、当設備規模からして相応の成果が得られたものとして期待される。

今後、再生可能エネルギーの学習の場として、また観光活用として公園整備を計画しているが、子供たちにわかりやすい発電機模型や、家族で学べる電気装置・遊具の設置も検討してはどうか。

答 升玉水力発電所については、建設計画の時から再

生可能エネルギーの学びの場として、また、観光資源として公園を整備したいと考えて、桜の植栽やトイレの設置を行っている。

具体的な整備内容は、これからの検討で、今年度中に計画を提示し、年次計画をもって進めていく。

さらに、肘折温泉、棚田、清水城址などをめぐる着地型観光コースとして、活用していきたい。

現在、発電所視察依頼が多数寄せられており、訪れる方々の宿泊や観光につなげる方策も検討したい。

9か月間の発電量・売電料金（7/12～4/13）

- 発電…2,198,440Kw（220万Mw）⇒244,271Kw/月⇒8,142Kw/日⇒340Kw/時
 - 売電…70,130,233円（7,013万円）⇒7,792,248円/月⇒259,741円/日⇒10,823円/時
- ※可能出力⇒最大490Kwh×効率0.8=390Kwh



斉藤 光雄 議員

村まるごとデジタル化事業の推進 村長 より一層デジタル推進に 努める

問 村の全戸を対象とした「くらっち」を配布し、見守り確認、災害情報のサービスを提供しておりますが、今後人口減少が進み地域活動の維持が困難な地域も出てくると思われる。住民の暮らしを便利で豊かにするために、将来に向けて、村まるごとデジタル化の取組が必要と思われる。また、総務省の有識者研究会において自治会活動の在り方議論で、今後電子回覧板の導入・デジタル化を推進すべ

きとする報告書のほか、市区町村には財政措置の支援が検討されている。また、新型コロナウイルス禍の現状をチャンスと捉え、現役世代や若者の参加を積極的に促すためにも、デジタル技術を活用することが重要と思われる。

また、私を含め6人が、赤松の生涯学習施設において、上竹野に在住する斉藤氏より有料でのスマホ学習の指導を受けており、ほとんどの方がデジタル技術を

活用していません。「くらっち」についても簡単だとは言え、理解出来ず活用が限定的になっており、定期的に開催されているサロンの場で、講習会の開催や講習会へ村より補助を行い、デジタル化事業の推進と、人口減少に伴い、やがて来る地域自治会の機能低下に備え検討すべきでは。

答 県内他市町村に先駆けてタブレット端末を全戸に配布し、コロナ対策や行政情報などを日々提供することを基本とし、更に防災情報システム「くらっち」を掲載させることにより、災害時には防災情報の確実な伝達を目指している。

この四月から地区の回覧については、将来的なペーパーレス化を見据え、従来の紙ベースでの回覧に加え、「くらっち」での送信も併用している。

また、本村のこれからのデジタル化、「村まるごと

デジタル化事業の推進」に関する事業の取り組みについては、総務省のデジタル化に関する事業を常に注視し、本村が必要とするデジタル事業に積極的に取り組んでいく。

不慣れな高齢者には、確実に情報を伝達するため、担当職員が直接出向き、講習会を開き、操作指導を行う。講習会は、年間を通して随時行い、少人数でも対応している。

デジタル化の波は、避けて通ることのできない重要な事業と考え、国が提唱する「誰一人取り残さない・デジタル化の実現に向けて」今後も高齢者を中心に広くデジタル化の啓蒙啓発に努め、村としてより一層のデジタル推進に努めていく。





早坂 民奈 議員

交通弱者の足確保 その後は

村長 経済性を考慮し交通手段の確保を検討

問1 4月末に人口が3千人を切ってしまい、人口減少は視覚的にも切実に感じられる。高齢化が進みこれからは住み続けるためにも、交通弱者の救済は必要である。他町村ではデマンドタクシー、介護、福祉タクシーなどが普及しているが、当村は、村営バスの自由乗降などで対処しているが、それで良いのか。ある方より、「今までは家族に送迎など頼んでいたが、事情が変わり、出来なくなる。

答1 交通手段の確保は重要な課題だと認識している。現在村の交通体系は肘折新庄定期路線バス、スクールバス利用の混乗方式路線、四ヶ村循環路線である。一部でフリー乗降を取り入

れ利用者の利便性向上を図っている。身体障がい者等の方にタクシー券の交付、リフト付き車両の移送サービス助成も行っている。郡内のデマンド型交通体制の導入は定時運行の路線バスの利用者が極端に少なくなり、代替えとして導入された。事前の登録と前日までの予約が必要である。運営主体も自治体かタクシー会社とあり、自治体においては運行に伴う1千万から2千万の経費を負担している所もある。一人一人すべてのニーズにこたえるのは難しく費用対効果も含め検討が必要。「バス利用推進委員会」で協議したところ、公共性の観点や持続可能な財政運営等を総合的に考慮すべきとのご意見も頂いていることから、現在の村営バス方式での運行を継続していく。今後バス利用状況の推移を見ながら経済性も考慮し良い交通手段の確保

について検討していく。
問2 今回の質問で5回目である。初めから比べれば改善されているが、本当に困っている人達にはどのような施策を考えていくのか。デマンド型が難しいのであれば、例えば有償ボランティア送迎サービスもある。以前の提案時期に比べれば認知度や利用者も増えている。是非とも何らかの施策を講じて欲しい。
答2 定期路線バスの利用者は他町村に比べ多いため、すぐにデマンド型に変える事は困難。しかしながら交通弱者を救うことは私も考えており、福祉タクシーや有償ボランティア送迎サービスの導入について検討していく。



委員会報告

総務文教常任委員会

研修会実施報告

- 令和4年5月12日
- 講師 山形県みらい企画創造部 市町村課 課長補佐 小田部 哲彦 氏

「市町村財政における「コロナウイルスの影響」

研修内容について

令和2年度の県内市町村普通会計決算について

- 歳入では特別定額給付金及びコロナ対策に係る地方創生臨時交付金の影響により国県支出金が大きく増加。県内で寄附金が大きく増加した市町村があったこと。（河北町・10億円など）
- 地方債が令和元年以降、市町村役場の新庁舎整備等の影響により増加している。
- 歳出では、平成22年度と比べ令和元年度は、民生費の割合

大蔵村の財政状況

* 現在、本村の令和2年度将来負担比率と実質公債費比率の状況は大変良好。

今後の市町村財政について

コロナウイルスの終息後、人口減少・少子高齢化が進む長い将来を見据え、持続可能な地域社会を築いていくため、地方財政の健全化に不断に取り組み、地域社会を支える基盤を確かなものとしていかねばならない。コロナウイルス終息後を見据え、持続可能な村政運営とするため、よく考えて行うことが必要であることを痛感した。

山形県の長期的な人口推移

国勢調査のデータに基づいた

産業建設常任委員会

農業再生協議会通常総会に参加して

5月13日に総会が行われ、出席しました。

この会議は農業再生に関わる行政、農協、農業従事者の各代表、国、県の関係者で構成されています。

内容は水田活用事業、担い手支援対策、経営所得安定対策推進事業等の事業報告、収支決算、水田収益力強化ビジョンについて話し合われました。

参加者の意見として、産地交付金の活用方法の明細の中で、

県内総人口の推移と将来推計で2015年までは約10%の減少、2020年以後は約30%の減少となる。

本村の将来推計人口は25年2,721人、30年2,392人、35年2,093人、40年1,813人、45年1,535人となるが、75歳以上の人口はあまり減らず、15〜64歳の人口が激減することなどを学びました。

講話の中では、財政への影響は、コロナウイルスよりも人口減少によるものの方が大きいということが分かった次第です。

今後も、本村の諸課題について研修を重ね、議員として学びを深めていきたいと思っています。



対象作物の単価の上限追加配分の時期はいつか、又、タラの芽を高収入作物として認めて欲しい、などの意見も出しました。

近年霜やヒョウ被害が起きておりそれに対する説明もありました。





ブレイクタイム

ウクライナの国

ウクライナに対するロシアの一方向的な軍事侵攻。戦地からの悲惨な状況報道に心を痛めるばかりですが、そのウクライナという国について少し知りたいと思います。

国土の大半が肥沃な平原(海や山など遮るものがない)のため、古代からさまざまな民族から繰り返し侵略を受けてきた歴史があり、ソビエト連邦の崩壊に伴い、1991年に独立しますが、その後もロシアとの国境付近での紛争は後を絶ちませんでした。**独立からまだ30年。**

国土面積は約60万平方キロ(日本の1.6倍)。人口は約4400万人。世界有数の穀物輸出国ではあるが**ヨーロッパで2番目に貧しい国**と言われ(年収平均50~60万)、物価が相当低いとはいえ暮らしは大変なようです。

国の標語は「自由・調和・善良」。国歌は「ウクライナは滅びず」。国旗は上が青、下が黄色の2色。青色は、国土を覆うどこまでも広がる青空。
黄色は、大地を染めて実っている小麦の穂と言われている。

国花は「向日葵」青春時代に観た映画【ひまわり】が思い出されます。

砲声の途絶えた青空を早く見せてあげたいと強く願います。



※写真はイメージです。



議会広報 常任委員会

委員	委員	副委員長	委員長
齊藤	早坂	佐藤	矢口
光雄	民奈	雅之	智

争いは嫌いだ。人と競い合うことも嫌いだ。何事であっても相手に譲る気持ちが優ってしまう。目立つことが嫌いなのだとも思う。親の遺伝子?と、言いながら、何回も村議選で戦っているし、時にブレイキが利かず揉めたことも数知れずあることも事実。それでも最後は笑って終えられるようにと常に願っている。

世の中は今、勝ち組、負け組だと、まるで日々戦いを強いられるような毎日を送っているように思えてならない。寛容さが失われている。辛いこと苦しいことの先の喜びを、職場の仲間や家族多くの友と共有できる、温もりのある世界であってほしいと、心から願っている。

世界は今、紛争や戦争が絶えない。民族・宗教・利害の対立。人と人とが殺し合っていることに、悲しい気持ちでいっぱいだ。争いは嫌いだ。

(矢口 智)



後書き

争いは嫌いだ